

◇学校の教育目標 美しい心を持ち、自ら考え、たくましくやりぬく子

◇めざす学校 「夢と感動のある学校」～自慢できる自分・学級・学校づくり～

【児童の実態】

- 学習の流れを理解し、学び方にそって意欲的に取り組む児童が多い。
- 少人数やT Tによる個に応じた支援が学習への抵抗感を少なくし、個人追究で自分の考えをほとんどの子がもつことができる。
- 自分のわからなさを自分から表出することに抵抗感がある子が少なくなってきた。
- ほとんどの子が、毎日の家庭学習に取り組み、習慣化されている。
- 仲間と交流して取り組むことができる。
- 全国学力・学習状況調査の結果が全国の平均を下回っている状況から、基礎的・基本的な学習内容の定着が弱い。
- 理由を説明することに苦手意識があり、自信をもって人に話すことができない。
- 聞いてほしい、認めてほしいのは教師であり、仲間に対する意識が弱い。

【めざす姿】

- ◇既習の内容をもとに、見通しをもって粘り強く考えることのできる子
- ◇自分から情報を集め、事象と関連づけて考えることができる子
- ◇考えの筋道を自分のノートにまとめ、そのことをみんなに伝えることのできる子
- ◇仲間との交流の中で自分の見方や考え方を広げたり、深めたりできる子
- ◇自ら自分の学習を振り返り、自分の伸びが実感できる子。
- ◇家庭での学習習慣が身につく、目的を持って自分から学習することができる子
- ◇学年で身につけるべき学習内容を確実に身につけ分かる楽しさを実感できる子

研究主題 自ら考え自分の言葉で表現できる子をめざして
 ～ 目的をもち 人とかわり よりよいものを創り出す ～

【仮説】わからなさを大切にしながら安心して話せる人間関係を基盤として、単元の指導方針を明確にするために単元構想図を作成し、本時のねらいを明らかにした逆向き設計の授業づくりに取り組むことで、児童が主体的かつ相互援助的に学び合う力を身に付け、自ら考え自分の言葉で表現できる子が育つ。

研究内容（１） 単元を見通すための指導計画の工夫	研究内容（２） 単位時間を見通すための学習過程の工夫
<u>単元の指導方針を明確にするための単元構想図の作成</u> ・単元のねらいを明らかにする。具体的な子どもの姿を明確に示す。 ・児童一人一人の実態把握 ・単元全体における単位時間の役割 ・「付きたい力」の明確化	<u>逆向き設計の授業づくり</u> ・本時のねらいを明らかにする。具体的な子どもの姿を明確に示す。 ・子どもの意識を大切にしたい課題化の工夫と見届け ・目的を明確にすることで誰もが活動する、交流活動（グループ交流、３人交流、全体交流など）を設定する。 ・子どもが本時の学習の定着状況を見つめることのできる「評価問題」の工夫
<基盤>わからなさを大切に、安心して話せる学級経営 ・学級の係活動を通して身に付ける力 ・仲間のよさを認め合う活動 ・短学活でのスピーチ交流 ・学級目標や学級のじまんを振り返る活動 ・個人の目標を振り返る活動	

【学びを支える取組】

- ・学習技能の定着（聞く・話す・ノート指導）
- ・学習集団としての基礎・基本の定着（話す・聞く）

【検証の指標】

- ・児童の意識調査
- ・全国（６年）